

## 荒れ狂う土石流 赤く燃える火砕流との戦い～20年の軌跡～

(インドネシア・火山砂防事業)

八千代エンジニアリング株式会社

インドネシアは

有数の火山国である。なかでも、メラピ火山(中部ジャワ)、クルー火山(東部ジャワ)、スメル火山(東部ジャワ)、ガルングン火山(西部ジャワ)及びアグン火山(バリ島)の火山活動は、河川の下流地域に多大な被害をもたらしてきた。日本政府は、この5つの火山における火山砂防事業の協力を1970年初頭より専門家派遣による砂防技術指導により開始した。

八千代エンジニアリング(株)は、1982年から2001年まで2件のJICA開発調査業務とインドネシア政府をクライアントとする4件の円借款事業のコンサルティング・サービス業務を30年以上にわたり継続して実施してきた。JICA開発調査業務では、計画立案や計画評価が行われ、円借款事業のコンサルティング・サービス業務では、火山防災施設の調査・設計、工事の施工管理、さらに、マスタープランの見直しなど順次緊急課題に取り組んできた。

本プロジェクトにより、日本からの砂防技術の移転が円滑に行われ、各種の砂防工事や土石流監視システムの強化などにより、土砂災害が軽減された。プロジェクトが終了した現在でも、砂防施設は土砂災害を防ぐという役割を十分に果たしている。本プロジェクトは、火山国日本の火山砂防技術が活かされたケースで、他のドナーにはないユニークさがある。また、インドネシアの現場が、日本の火山砂防技術者の経験蓄積の場ともなった。1991年の雲仙普賢岳噴火後の防災基本方針策定にあたり、本プロジェクトでのコンサルタントの経験が活かされた。

以上の点から、本プロジェクトは日本と海外の経験の交流という点で高く評価でき、国際協力のあるべき姿でもあると言えよう。

